

COVER STORY

01

日本の発展を支えてきた技術

近代化、戦後の復興、高度経済成長と、日本の長年の発展を当社は高度な技術と幅広い製品で支えてきました。

その領域は陸、海、空、そして宇宙にまで及びます。

日本経済と成長をともにしてきたために、

1980年代以降、当社の成長も鈍化しましたが、新たな成長軌道に乗るべく、2000年代終盤からグローバル化と経営改革の推進に舵を切りました。

このカバーストーリーでは、過去から現在、そして未来に続く当社の価値創造の挑戦をお伝えしていきます。

創立～戦前

近代国家への道を牽引

1884年、長崎で本格的な造船事業に乗り出したところから、当社の歴史が始まりました。それ以来、欧米に追いつくための急速な進歩を、造船にとどまらず、自動車、航空機や、タービン、内燃機関などの製作を通じて牽引してきました。当時の世界水準を超えるまでに極められた技術は、戦艦や戦闘機など軍需製品にも転用されていきました。



長崎造船所 (1884年)

拡大してきた事業領域

造船事業から始まった当社の事業は130年間でその領域を大きく広げ、現在はエネルギー・環境、交通・輸送、防衛・宇宙、機械・設備システムの4つのドメインで事業展開しています。

また、地理的な面でも領域を拡大しており、近年は輸出のみならず海外拠点の営業・調達・生産体制を強化すると同時に、海外企業との提携やM&Aも進め、海外売上高比率が50%を上回っています。

戦後～高度成長期

豊かな日本を築いていく キープレイヤーとして

終戦後の1950年、GHQの財閥解体方針により当社は3社に分割され、それぞれが競合しながら、タンカーやガスタービンなどの重機械に加え、スクーターやエアコンなど幅広い製品分野で日本の復興を支えました。1964年に3社は再統合し、発電プラント、橋梁などの社会インフラや、コンテナ船、モノレールなどの輸送機械を開発・生産し、日本の高度経済成長の一翼を担いました。



立体駐車場1号機 (1963年)

国内経済成長の鈍化

日本経済とともに 成長が停滞

1973年のオイルショックによる日本の高度経済成長の終焉は、造船事業を中心に当社にも大きな影響を与えました。その後、産業機械事業の新設などにより安定成長を経た後、1991年のバブル景気の崩壊を受け、再び低成長時代に入りました。この間も当社はロケット打上げを成功させ宇宙開発に参入するなど事業領域を広げ、先端技術を磨きましたが、年間売上高は約30年にわたって3兆円前後で横ばいの状態が続きました。



H-IIロケット初号機打上げ成功 (1986年)

持続性と 多様性の 時代へ

新たな成長を求め、 グローバル企業へ

日本の成長が鈍化する一方、海外では新興国が著しく発展し、インフラ整備の需要が拡大しています。また、気候変動や天然資源の枯渇に対する危機意識の高まりから、環境保全が世界共通の課題となりました。長年にわたり多様なインフラを提供し、オイルショック以降は環境技術も追求してきた当社は、世界の進歩を支え新たな成長を遂げるべく、グローバル企業への道を進んでいます。



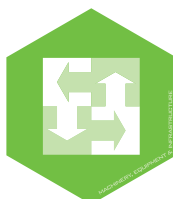
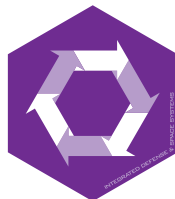
世界最高効率のJ形ガスタービンが実証運転で世界最高のタービン入口温度1,600°Cを達成 (2011年)

エネルギー・環境

火力、原子力、再生可能エネルギーなどのエネルギー分野と、水処理、排煙処理といった環境分野、化学プラントなどの産業インフラでの最適なソリューションを提供しています。

防衛・宇宙

艦艇、防衛航空機、ロケット、特殊車両などの陸・海・空・宇宙の統合防衛システムと、宇宙関連サービスを提供しています。



交通・輸送

民間航空機、商船、交通システムなど、陸・海・空を舞台に先進的な交通・輸送システムを、高い安全性とたしかな品質・信頼性をもって提供しています。

機械・設備システム

工作機械、物流機器、空調・冷凍機器、橋梁など、社会・産業を支える広範なサービスを提供しています。